



商工会議所LOBO(早期景気観測)

—2016年5月調査結果(概要版・付帯調査)—

2016年5月31日

業況DIは、横ばい圏内の動き。熊本地震の影響もあり、慎重な見方が広がる

ポイント

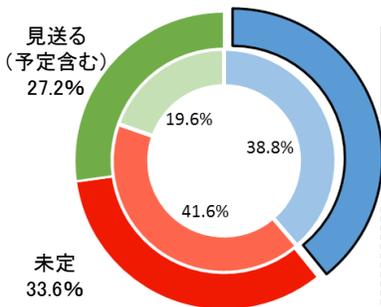
- ▶ 5月の全産業合計の業況DIは、▲22.8と、前月から▲1.8ポイントの悪化。熊本地震の影響が大きく、ゴールデンウィークの観光需要の落ち込みをはじめ、小売業やサービス業、製造業など広く業況の押し下げ要因となった。金融市場の不安定な動きに対する懸念は和らぎつつあるものの、受注機会の損失や人件費上昇など人手不足の影響拡大、消費低迷の長期化、新興国経済の減速などから、中小企業のマインドは依然として鈍く、横ばい圏内の動きが続いている。
- ▶ 先行きについては、先行き見通しDIが▲23.8(今月比▲1.0ポイント)と悪化を見込むものの、「好転」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。公共工事の早期執行や設備投資の持ち直し、夏の賞与に伴う個人消費の伸びへの期待感が伺える。一方で、熊本地震の影響や円高進行によるインバウンド需要の鈍化など消費の一段の悪化、慢性的な人手不足や価格転嫁の遅れなどへの懸念が企業のマインドを鈍らせており、中小企業においては、先行きへの慎重な姿勢を崩していない。

2016年度の設備投資動向

- ▶ 2016年度に設備投資を「行う(予定含む)」企業(全産業)は39.2%と、2015年5月調査と比べ、ほぼ同水準。他方、「未定」は33.6%と、8.0ポイント減少し、「見送る」は27.2%と、7.6ポイント増加
- ▶ 設備投資内容は、「国内で新規設備投資」(全産業)が35.7%、「国内で既存設備の改修・更新」が74.5%、「海外で新規投資または既存設備の改修・更新」が、4.2%
- ▶ 国内の新規設備投資の目的は、前年同月に比べ、「能力増強」が9.9ポイント、「省力化・合理化」が7.5ポイント増加した

◆2016年度の設備投資動向について

※円グラフの外側が今回調査、内側が前回(2015年5月)調査

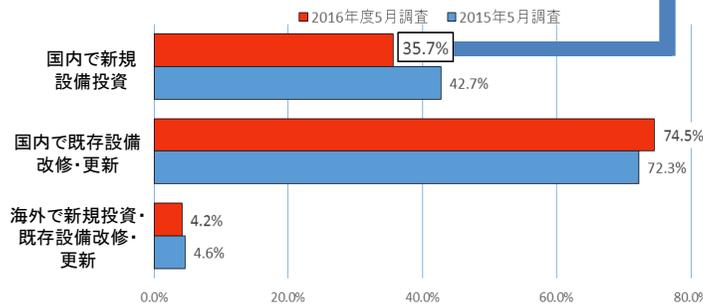


設備投資を行う
(予定含む)
39.2%

【参考】
2015年度の設備投資実績
・実施した・・・47.4%
・実施しなかった・・・52.6%

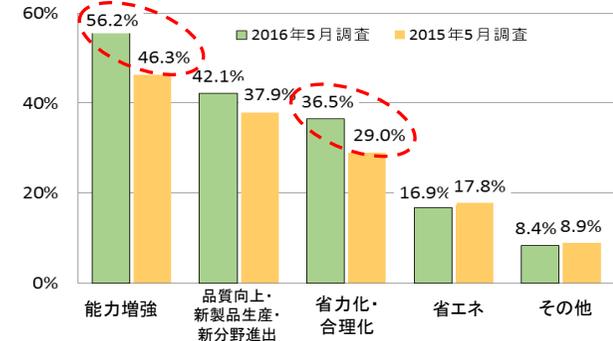
<設備投資の内容>

※設備投資を行う企業が回答 【複数回答】

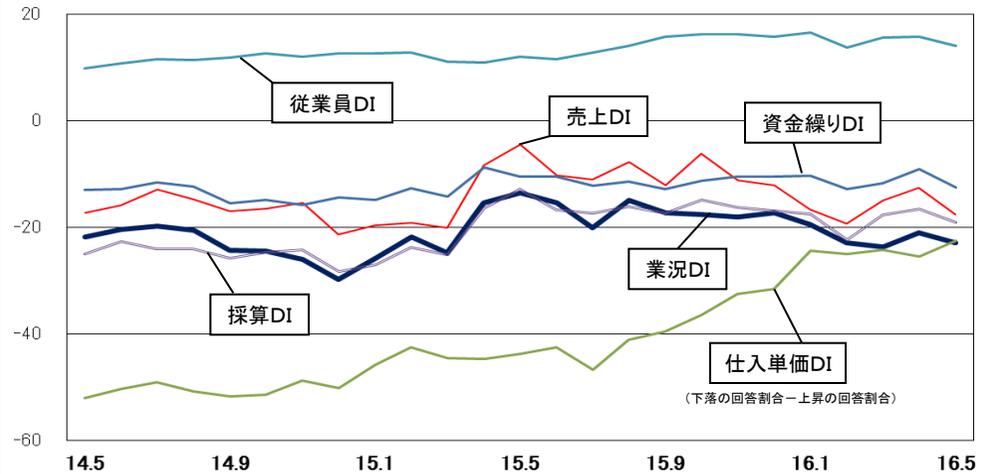


<国内の新規設備投資の目的>

【複数回答】



LOBO全産業合計の各DIの推移(2014年5月以降)



【中小企業の声】

- ▶ 前期は設備投資を抑えたが、今期は人材の採用、定着を目的に、合理化、省力化、労働環境の改善を中心とした設備投資を行う予定 (本庄 自動車部品製造業)
- ▶ 地産地消事業として、地元の漁港で水揚げされた魚介類や地域の特産品を生かした新商品が好調なため増産に向けた設備投資を行う (静岡 食品加工卸業)
- ▶ 為替相場の変動により、得意先の製造業の設備投資が縮小される見込み。設備投資するか否かの判断に迷う (刈谷 総合建築業)
- ▶ 熊本地震の影響により、宿泊客や宴会のキャンセルが多く出ている。観光需要の減少が見込まれるため、来期に設備投資を先送りする (都城 旅館業)